CSR

Corporate Social Responsibility

Report 2023

CSR Report 2023

コベルコシステム株式会社
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

https://www.kobelcosys.co.jp/

本　　社：〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル
東京本社：〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9番12号 北品川ONビル

発　　行：コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会
(事務局 TEL. 078-261-6001　FAX. 078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています

印刷に関する配慮

GREEN PRINTING JAPAN P-K10002

この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

用紙に関する配慮

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C016129

この冊子はFSC®認証紙を使用しています。

インクに関する配慮

VEGETABLE OIL INK

環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。

コベルコシステム株式会社
KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

Top Message

2022年は新型コロナウイルス対応が続く中、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、米中対立による地政学リスクの高まり、異常気象による大規模洪水や干ばつなど不確実性・複雑性が高まっており、より一層予測困難な時代となったと言えます。そのような時代だからこそ、揺らぐことなく経営・事業の方向性をしっかり持ち、状況を把握し、すばやく意思決定していく必要があると認識しています。

2023年は現中期経営計画「Vitalization」の最終年となります。これまで以下の3つの方針を掲げて取り組んできました。引き続き社員とともに、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様に価値をお届けする所存です。

集客よりも定着

今お付き合いさせていただいているお客様を何よりも大事にし、お客様の企業文化・考え方を深く理解するとともに、基幹システムだけでなくDX(デジタル・トランスフォーメーション(※1))についても相談していただけるパートナーを目指し、お客様とともに取り組んでいきます。

脱工数(※2)

これまでのシステム受託開発型ビジネスからの変革を目指し、共通化・効率化・自動化・アセット化・テンプレート化を加速し、より高い品質と生産性にチャレンジしていきます。加えて定額制サービスなど、継続的にお客様とともに価値を創り上げていく共創モデルを推進し、当社の存在価値向上を目指していきます。

多様性の尊重

さまざまな経歴やスキルを持った多様なプロフェッショナル人材が、当社の中で成長、貢献、共創できる環境を整備し、多様な人材が健康で安心してイキイキと働ける会社を目指していきます。

そして2023年は次期中期経営計画を立案する年となります。改めて、当社の社会への貢献/存在意義とは何かを見つめ直したいと考えています。我々はステークホルダーの皆様に対してどのような価値を持続的に提供し社会に貢献していくのか、若手社員による座談会を設けるなどさまざまな角度から議論し、次期中期経営計画策定のインプットにしていく予定です。

今、世の中の潮流はすべての産業においてサステナビリティに取り組む方向であり、SDGsの目標達成のために、IT企業である当社が果たす役割は大きいと考えます。ITソリューション/サービスを通じてお客様のサステナビリティに貢献するとともに、社員やその家族、ビジネスパートナー様、地域社会との信頼関係のもと、持続的な共存共栄につながる経営にしていきたいと考えています。その信頼関係のベースにあるのは、これまで取り組んできているCSRであり、引き続き社員一人ひとりがコンプライアンスの重要性を理解し、正しい判断に基づいて行動していきます。

今後もすべてのステークホルダーの皆様とともに歩んでいきたく、当社の取り組みを当レポートにまとめました。ご覧になりました皆様が、当社をよりご理解いただけることを切に願っています。

代表取締役社長

瀬川文宏

※1:デジタル・トランスフォーメーション(DX:Digital Transformation)
企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもとに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、顧客に新しい体験を提供することにより競争力を持つこと。

※2:脱工数
工数ビジネスからの脱却。工数ビジネスとは、作業量に応じて費用を支払うもので、要員単価×所要月数で見積るビジネス。

Contents

特集

03 サステナビリティ経営
05 脱工数ビジネスへの取り組み

CSRの取り組みについて

07 CSRを支える経営基盤

お客様とともに

11 お客様から信頼されるパートナーになるために
13 品質向上活動に終わりはない
14 セキュリティなくしてビジネスなし
15 先進技術への取り組み強化
16 外部からの評価
17 お客様事例紹介

ビジネスパートナー様とともに

19 公正なパートナーシップの維持

社員とともに

21 人材育成の仕組み
24 社員と組織の絆を深めるために

地域社会とともに

25 環境保護・地域貢献活動

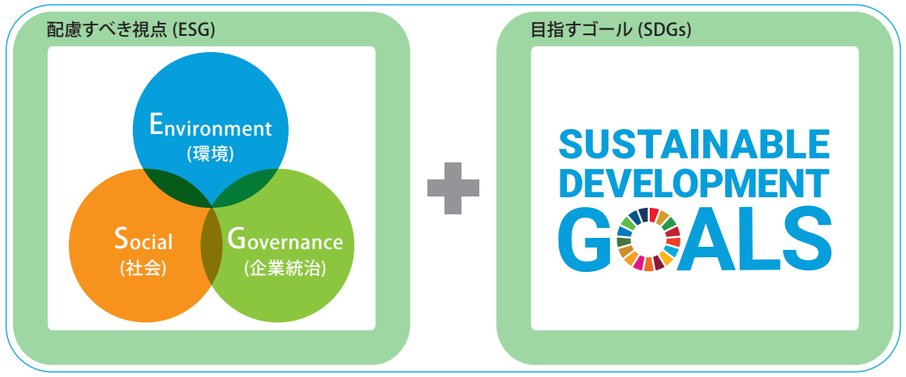
26 会社プロフィール / 沿革 / 編集後記

［報告対象期間］
2022年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に記載しています。
一部につきましては、対象期間以前からの経緯やCSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

コベルコシステムのサステナビリティ経営への取り　組み状況

サステナビリティ経営への取り組み状況

コベルコシステムは、経営理念・長期経営ビジョンに基づき、すべてのステークホルダーにとってかけがえのない存在となるよう、事業活動を推進しています。また、ESGに配慮した経営のもと、社会の重要課題に取り組み、事業活動(デジタル化、ガバナンス強化など)を通じてSDGs達成に貢献していくことが持続的な企業価値向上につながると考え、「サステナビリティ経営」の推進について経営陣での議論をさらに進めており、「サステナビリティ経営」への取り組みを次期中期経営計画(2024～2026年)に盛り込む予定です。



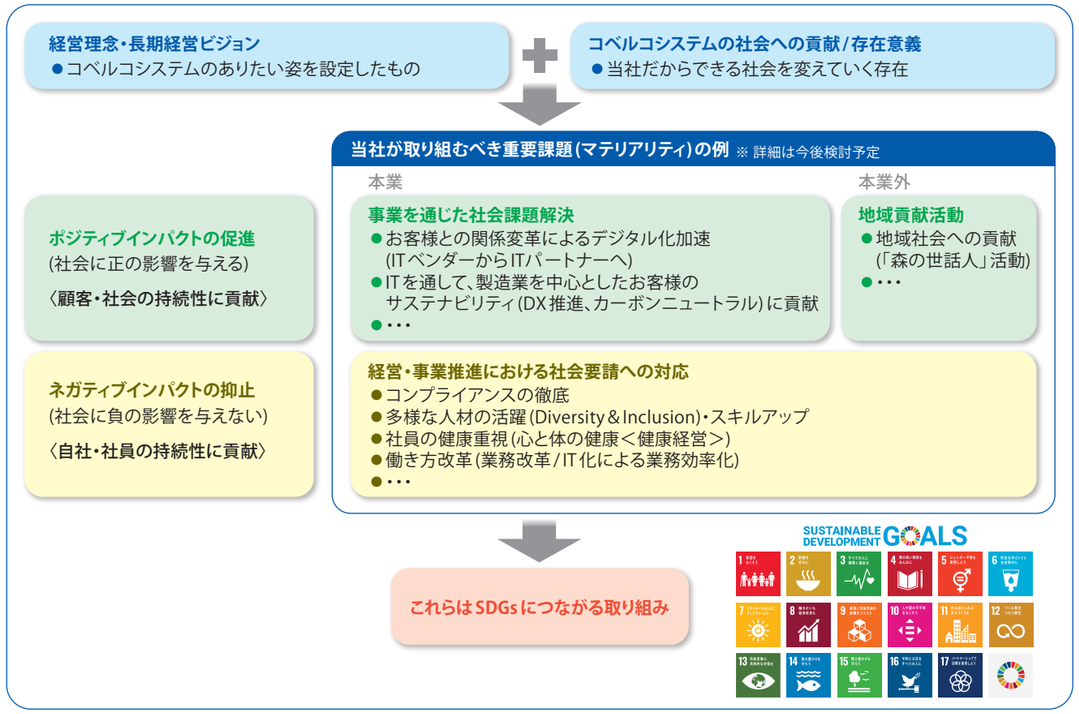
現在の当社の取り組みの一部と、SDGsの対照表は次のとおりです。

お客様へのアプローチ	●定期的なお客様満足度調査および改善アクション ●お客様の期待に応える人材を育成する戦略研修 (TP(*)人材・グローバル人材育成、コンサルティング力強化、PM育成) ※ TP: Trusted Partner, お客様から言われたことの本質を理解し、真の要求を引き出してから実行することができる。 ●戦略パートナープログラムによる、お客様へさらに価値あるサービスの提供 ●KOBELCO SYSTEMS Technology Share Conference (テクシェア) などによる先進技術の社内普及推進、技術力の向上	8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
人材の活性化	●全社員がイキイキと働き続けられる会社づくりを目指すKWC (KOBELCO SYSTEMS Work-engagement Community)活動 ●育児・介護と仕事の両立を狙いとした短時間勤務制度、子の看護休暇制度などサポート制度の充実(プラチナくるみん認定取得) ●社員一人ひとりの目標管理とキャリア形成を支援するCCP (Career Communication Program) ●当社発展の牽引力となる人材の育成と登用を狙いとするKCP (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession)認定制度	5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう
社会的責任・社会貢献	●IBMグループの全社員が守るべき行動規範 BCG(Business Conduct Guidelines)プログラムの浸透 ●社員が遵守すべき事項を共通研修(適正取引、情報セキュリティ)で浸透 ●業務委託先にも当社の定めるセキュリティ基準を遵守してもらうための年次セキュリティ研修 ●地域社会への貢献および防災事業の一環としてのボランティア活動(「森の世話人」活動) ●協賛(SCIX、大阪フィルハーモニー交響楽団、アンサンブル神戸) ●外部団体加入(神戸製鋼所・日本IBM関連、情報業界関連、官庁および地域団体など)	11 住み続けられるまちづくりを 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に
KOBELCOグループ会社のDX戦略支援	●KOBELCOグループ会社のサステナビリティ経営推進による企業価値向上を目指したDX戦略への支援	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任

サステナビリティ経営に向けての今後の取り組み

次期中期経営計画(2024～2026年)において、「サステナビリティ経営」の取り組みを推進するために、まずは「当社の社会への貢献 / 存在意義」を明確にしていきます。既に定めている経営理念・長期経営ビジョンに「当社の社会への貢献 / 存在意義」を加え、当社が取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を導き出し、次期中期経営計画にて施策を作成し、施策とSDGsの関連についても整理します。(下図「当社のサステナビリティ経営のまとめイメージ」ご参照)

■ 当社のサステナビリティ経営のまとめイメージ

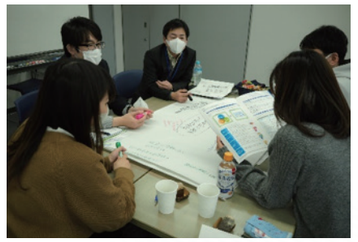


「当社の社会への貢献 / 存在意義」の確認では、経営陣だけでなく、若手の意見を取り入れるために、30人のSDGsネイティブ(※)と言われる若手社員と社長、副社長を交えた座談会を実施しました。具体的には、現在の経営ビジョン、中期経営計画についての理解を深めたうえで、「お客様、社員を含めたすべてのステークホルダー(お客様、社員、株主、ビジネスパートナーなど)に対し、どのような貢献をしていくか。何のために存在しているのか。」について議論してもらいました。今後、若手の意見を参考にしながら、経営陣や次期リーダーが中心となって、各ステークホルダーのニーズや期待、目指すゴールを整理していきます。お客様はもちろん、社員にも軸足を置きながら、どのステークホルダーに対して何を重点的に実施するか、優先順位を決めていきます。その優先順位に基づく当社の取り組みを次期中期経営計画に盛り込み、取り組みとSDGsの関連についても整理します。策定した取り組みを全社員が着実に遂行することで、企業・社員の価値向上と持続的な成長を目指します。

※ 主にミレニアル世代(1981年～97年生まれ)とZ世代(1998年～2010年生まれ)の幼い頃から日常生活や学校教育などでSDGsに関する言葉や知識に触れ、環境問題や社会課題に高い関心を持つ人。

■ 若手座談会の様子

社長から会社の歴史などについて説明


各チームに分かれて議論

各チームからの発表

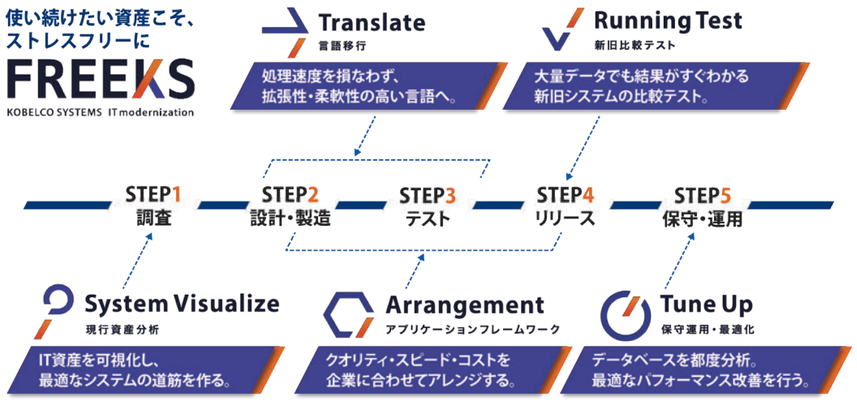
脱工数ビジネスへの取り組み

コベルコシステムが2021年4月に発表した中期経営計画『Vitalization』の重点施策の一つとして、脱工数ビジネスの実現に向けて取り組んでいます。これまでのシステム受託開発型ビジネスからの変革を目指し、共通化・効率化・自動化・アセット化・テンプレート化を加速し、より高い品質と生産性にチャレンジしています。

現在の日本企業はITエンジニア不足という大問題に直面しています。これが、レガシーシステム刷新やデジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組みをさらに困難なものにしていると考えられます。そこで、本特集では、当社独自のソリューションを二つ紹介します。

自動化メソッド FREEKS

コベルコシステムでは、ITモダナイゼーションを円滑・効率的に推進するため、アセット・ノウハウを2000年代初頭から積み上げてきました。そのアセット・ノウハウを凝縮して立ち上げたブランドがFREEKSです。「使い続けたい資産こそ、ストレスフリーに」というキャッチコピーのもと、既存システムの調査から設計・製造、テスト、リリース、保守・運用まで、ITモダナイゼーションの幅広いフェーズを自動化することで、企業のシステム刷新をご支援します。



FREEKS System Visualize　現行資産分析

最も効率的に最新のシステムへ再構築するためには、現状の資産を把握することが必要です。今あるIT資産の全体規模や稼働状況を紐解き、システムマップとして可視化します。無駄な部分の再構築を省くことで最適なシステムへの最短の道筋を作ります。

FREEKS Translate　言語移行

処理性能が高く、操作性が高いJavaへ言語を再構築します。カスタマイズができるため、導入後のメンテナンスがしやすく、将来的な拡張も移植もスムーズに行え、運用・保守も簡単に。コベルコシステム独自の国産ツールのため、安心してご利用いただけます。

FREEKS Arrangement　アプリケーションフレームワーク

時代・業界の変化への迅速な対応を可能にするために、システム基盤の標準化を行いながら、独自のシステムを構築します。コベルコシステム独自のフレームワークを使用し、時間と工数を省きながら、企業に最適なシステムへのアレンジが可能となります。

FREEKS Running Test　新旧比較テスト

構築前のシステムと再構築した新システムの処理結果を比較することで、品質を担保し、再構築のリスクを低減します。また、大量のデータの比較や複数のテストをワンストップで行えるため、比較結果をすぐに確認でき、余計な時間がかかりません。

FREEKS Tune Up　保守・運用の最適化

システム改修後も保守・運用を最適化し、処理パフォーマンスを都度向上させるサービスです。データベースの分析を行い、改善箇所を整理しながら、新たに必要なプログラムの再構築まで行います。他社様で開発されたシステムのご相談も可能です。

コベルコシステムが持つ知見をパートナー企業様へ技術支援し、パートナー企業様からお客様にご提供いただく形態も可能となっています。当社の「FREEKSによるアセット」「モダナイゼーションノウハウ」をパートナー企業様へ提供し、パートナー企業様の各種ソリューションやサービスと組み合わせてお客様にご提供いただいています。また、パートナー企業様同士での技術支援を相互補完いただく取り組みも進めています。たとえば、開発経験の少ないパートナー企業様に対し、開発経験豊富なパートナー企業様をご紹介するなど、複数のパートナー企業様の強みを組み合わせていただき、「エコパートナーシップモデル」としてお客様へ最適なサービスをご提供できるよう努めています。

エンジニア不足が叫ばれる中、人依存のプロジェクトを脱却する自動化メソッドとパートナー連携を武器に、モダナイゼーションに課題を抱えるお客様、パートナー企業様へ今後も貢献していきます。

SAP S/4HANAテンプレート　HI-KORTシリーズ

SAP S/4HANAは世界で最も多く採用されているERPパッケージで、日本国内でも多くの企業が導入しています。一方でその導入プロジェクトの難易度は高く、プロジェクト期間が長期化しコスト高となる傾向にあります。

そこで、SAPの導入経験が豊富なコベルコシステムが、その知見を活かして製造業に特化したテンプレートHI-KORT(ハイコート：Hyper Implemented by KObelco Realizable Template)を開発し、これまで多くのお客様に適用してきました。

HI-KORTには、お客様業務に基づく必要な設定とアドオン機能を予め実装しており、また、要件次第ではカスタマイズ設定を追加することも可能です。HI-KORTの標準機能を活用することで、短納期・低コストでの導入を実現します。また、お客様の導入プロジェクトにおける追加開発ボリュームの低減により、品質の安定化にも寄与するとともに円滑な保守・運用を実現します。

HI-KORT for IM&C　産業用機械製造業向けテンプレート

見込生産、受注組立生産のビジネスプロセスを想定したパラメータ設定や、各種ドキュメントを提供。SAP S/4HANAのスムーズな導入と運用をサポートします。

HI-KORT for ETO　個別受注生産型テンプレート

受注設計生産方式のビジネスプロセスを想定したパラメータ設定や、各種ドキュメントを提供。SAP S/4HANAのスムーズな導入と運用をサポートします。

HI-KORT for Auto Supplier　自動車部品業向けテンプレート

自動車部品製造業のビジネスプロセスを想定したパラメータ設定や、各種ドキュメントを提供。SAP S/4HANAのスムーズな導入と運用をサポートします。

HI-KORT for Engineering　工事業向けテンプレート

プロジェクト管理から会計システムまでを網羅し、工事進行基準対応、内部統制を強力にサポートするテンプレートです。

HI-KORT Analytics　製造業向けSAP Analytics Cloudテンプレート

製造業向けのSAP Analytics Cloudテンプレートです。

HI-KORTには事前定義された業務プロセスだけでなく、独自開発したアドオン機能、各種移行ツールや、過去のプロジェクト実績に基づいた豊富なドキュメント類が含まれています。HI-KORTの業務プロセスを、お客様の標準業務と捉えることで、効率良くFit to Standardを推進することが可能になります。導入初期のタイミングで、実際に動く画面を見ながら機能検証を行うことができ、システム仕様の齟齬、思い違いを防止し、手戻りを抑制することが可能です。「誤った業務設計」「導入後に機能しない」などのリスクを最小限に抑えることにもつながります。

コベルコシステムは、お客様のデジタルトランスフォーメーションを実現するために、基幹システムの整備を支援します。今後も、HI-KORTの高付加価値化とあわせて、維持コストの低減を図る取り組みを継続します。

また将来的には、テンプレートのみの販売やサブスクリプションモデルの検討を推進していきます。

コベルコシステムのCSRを支える経営基盤

経営理念・長期経営ビジョン・中期経営計画

経営理念

私たちコベルコシステムは、
お客様と「夢」を共有し、
確かな知識と卓越した技術による
ITソリューション/サービスを通じて、
お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

長期経営ビジョン

Be a Trusted Partner

お客様に信頼されるパートナーとして

- お客様にとって**なくては困る**会社
- お客様と**ともに成長する**会社
- 社員が**誇りを持てる**会社

中期経営計画

Vitalization

- お客様がニューノーマルと呼ばれる新しい世界で成長するための変革を支援する。
- そのために当社もパートナーとしての新たなステージに向け変革をスタートさせる。

コベルコシステムは、今後も永続的に発展を続けるために、将来のありたい姿を示した長期経営ビジョン『Be a Trusted Partner』のもと、長期経営ビジョンの実現に向けた3か年の中期経営計画『Vitalization』(2021年～2023年)を策定しています。

新規DXソリューションの事業化を目指すとともに、Trusted Partnerになるための事業変革の基盤となる人材の育成やすべてのステークホルダーへの貢献につながる活動に注力しています。

Vitalization　3つの方針

Trusted Partnerを目指したビジネス強化

- Trusted Partnerを目指した新しいパートナーシップモデルの提供
- 神戸製鋼所様の機能分担会社としての価値向上

新規DX事業の立上げと既存事業の高収益化

- DXソリューションの事業化
- 脱工数ビジネスへの転換
- 神戸製鋼所様のIT戦略支援、デジタル化

事業変革の基盤となる人材への投資と社会貢献

- 将来を意識した多様なプロフェッショナル人材の育成
- すべてのステークホルダーへの貢献

Vitalization　5つの重点施策

営業戦略

1 お客様別パートナーシップモデルと効果的アプローチ
- 主要顧客向け共創モデル・協働モデルの確立
- お客様個別への効果的アプローチ

2 製造業向けDXソリューションとHI-KORT4.0の知財拡充
- DXソリューションの開発と事業化
- HI-KORT4.0の拡充とDX連携

事業戦略

3 脱工数ビジネスへの転換加速とさらなるQCD強化
- アセット、コンテンツの拡充
- サブスクリプションモデルの拡大
- QCD強化(オンライン環境下を含む)

4 プロフェッショナル人材の育成投資
- コベルコシステムグループ人材育成モデルの開発
- 顧客接点人材の強化
- 先進技術への取り組み活性化

本社機能別戦略

5 健康と生産性を重視した新しいワークスタイルの実践
- 社員の心身両面での健康促進支援
- 高いモチベーションと生産性の維持に向けた組織風土と働き方変革

マネジメント・経営品質

コベルコシステムのマネジメントは、「常にお客様満足の追求を経営の中心に置き、組織・プロセスを変革する」という考え方を基本としています。

コベルコシステムでは、経営品質向上プログラム(※1)の「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念を軸に組織プロセスの変革に取り組んでいます。

※1 日本経営品質協議会のプログラムで、顧客、競争(独自性)、社員、社会のすべてにおいて高い価値を作り出すために革新し続ける経営づくりを支援するプログラムです。「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念から構成されており、これらをすべて満たすことが卓越した経営に共通した条件とされています。

顧客本位
お客様に信頼される真のパートナー
私たちは、お客様ごとのニーズに応じて情報システムを構築・提供するサービス業であり、常にお客様の価値を創造していくことが使命である。

独自能力
他社との違い
現場の経験で培ってきた優れた品質・高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の夢を実現するための独創的な「知恵」が私たちの財産である。

社員重視
プロフェッショナル人材
挑戦し、学び続ける自律した人材と、お互いを尊重する自由闊達な組織風土が、事業を営んでいくための重要な資産である。

社会との調和
企業倫理の遵守と健全な成長
コンプライアンスを推進し、適切なガバナンスを自律的に作り上げ、社会的な価値観で考え行動し、地域貢献活動にも積極的に参画する企業文化である。

経営品質向上プログラムのフレームワークと2022年の活動結果

コベルコシステムでは、経営品質向上プログラム(※2)の「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」の4つの基本理念を軸に組織・プロセスの変革に取り組んでいます。各カテゴリーでの2022年の活動結果を下記フレームワークに示します。

※2 日本経営品質協議会のプログラムで、顧客、競争(独自性)、社員、社会のすべてにおいて高い価値を作り出すために革新し続ける経営づくりを支援するプログラムです。

方法と展開

戦　略

カテゴリー1
リーダーシップ
- 社長メッセージに加え、役員からのエグゼクティブメッセージを定期発信
- リソース不足改善のため、人材戦略に特化した委員会を新設

カテゴリー2
社会的責任
- 六甲山での「森の世話人」活動を継続実施
- 新型コロナウイルス感染防止のため、災害対策本部を設置し、状況に応じた社員およびパートナー向けガイドを継続発信

カテゴリー3
戦略計画
- 中期経営計画“Vitalization”を策定。中期経営計画の4つのゴール、5つの重点施策を年度ごとにブレークダウンしたKGI、KPIを設定。半期ごとに進捗状況を確認
- 全社CPS(※3)開催によるお客様向け活動状況のマネジメントの継続

※3 CPS(Client Planning Session):クライアント・プランニング・セッション

組　織

カテゴリー4
組織能力
- 全社員を対象に外部講師による階層別のメンタルヘルス研修を実施
- TP人材育成研修、PM育成研修の継続実施
- 年次ライン長研修、コンプライアンス研修の継続実施
- 先進技術の社内普及推進、社員の技術力向上、ノウハウ共有を目的に「KOBELCO SYSTEMS Technology Share Conference(テクシェア)」を開催
- 新型コロナウイルス感染防止のため在宅勤務推奨を継続し、取得日数上限の暫定的な撤廃、あわせて在宅勤務報奨金支給の制度の継続
- 社内IT環境および業務システムの改善、また社内業務におけるモバイル活用を推進
- 定年延長、定年後再雇用制度の刷新・運用
- 全体最適のもと、意思決定のスピードを上げて経営課題に取り組んでいくため、チーフオフィサー制を導入

業　務

カテゴリー5
顧客・市場の理解
- 最重要顧客を軸とする本部を統括する事業部を設置。また、デリバリー部門を統括する本部を設置。チーフオフィサーが組織を横串で見ることにより、全体のレベルアップ実施
- クライアントパートナーチームの段階的設置および全社CPS運営の継続
- 当社の技術戦略の策定・推進を進める委員会の開催

カテゴリー6
価値創造プロセス
- 製造業向け当社ソリューション群の全体像をまとめたHI-KORT4.0のリファレンスの最新化プロセスを継続実施
- 特定の技術テーマ(先進技術・手法など)に興味を持つ社員が交流し、技術・スキル強化に向けた研鑽活動を行う「技術コミュニティ」の継続

結果

カテゴリー7
活動結果
- 2022年は過去最高の業績を達成(売上高/利益)
- お客様満足度80ポイント
- 社員満足度71ポイント
- 大阪ガス株式会社様から感謝状
- SAP Award of Excellence2022「SAP Services Collaboration アワード」受賞

カテゴリー8 **振り返りと学習**
- 中期経営計画「Vitalization」の達成を目指すうえでの経営課題を明確にし、2022年度予算への織り込みを実施

CSRを支える経営基盤

CSR推進活動方針・推進体制

① ステークホルダーに対する「大切に想う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する
② コベルコシステムならではのCSR活動を展開する
③ さまざまな活動への参画を通じて、CSRへの理解を社内に広く浸透させる

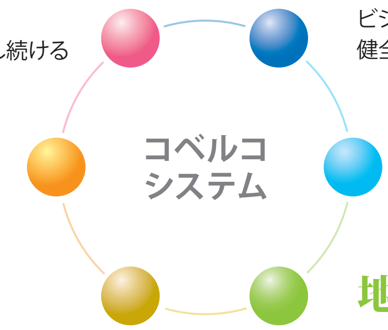
コベルコシステムでは、CSRを「経営を支える大切な取り組み」と位置付けており、経営ビジョンを実現するための活動として推進しています。

設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化、2009年にはCSR推進委員会を設立し、2010年に「CSR推進活動方針」を策定しました。これまで、コンプライアンスの強化と情報セキュリティの強化、リスクマネジメント、適正取引の推進、社会貢献活動の充実を目指して活動してきました。

CSR推進委員会は経営会議の諮問機関として、社長をオーナー、CSR担当役員を委員長とし、各部門から選出されたCSR推進委員で構成されています。この委員会が全社のCSR推進活動方針に基づいた重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループによる活動、社内外へのCSR情報の開示などのコミュニケーション活動を担っています。

2012年4月には、適正取引に関する活動をしていた「適正取引推進委員会」をCSR推進委員会に「適正取引部会」として統合し、コンプライアンス強化の一環として推進する体制に再編しました。また、これらの活動を幅広くステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2010年からCSRレポートを発行しています。

コベルコシステムのステークホルダー



お客様
ITソリューション/サービスを通じて
お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

ビジネスパートナー様
ビジネスパートナー様と
健全でWin-Winの関係を築く

社員
企業発展の原動力である社員一人ひとりが
活力を高め、最大限のパフォーマンスを
発揮できる職場を実現する

行政
法令などを正しく理解・遵守し、
行政との良好な関係を保つ

株主
日本IBM、神戸製鋼所のグループの一員として
企業活動を推進する

地域社会
当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、
企業市民として社会への貢献を確実に実行する

取得済の認証・認定・許可

ISO 9001
JQA-3022

■ ISO9001適用部署：
ソリューション事業部
クライアント事業部 エンタープライズ本部
クライアント事業部 OS本部 第4サービス部
ICT本部
営業本部

■登録活動範囲：
製造業、流通業及びその他の産業向け 顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス（教育、移行支援及び瑕疵対応）

ISMS JIS Q 27001 ISO/IEC 27001 JSAI003
ISMS-AC ISMS ISR006

■登録組織：システム事業部 ICT本部
■登録範囲：インフラソリューションサービスの提供
■規　　格：JIS Q 27001:2014 (ISO/IEC 27001:2013)
■登録番号：JSAI 003
■有効期限：2024年4月20日
■登録認証機関：日本規格協会ソリューションズ株式会社 審査登録事業部

たいせつにしますプライバシー
20000795(12)

プラチナくるみん
子育てサポートしています

日本IBMグループ統一認証

ISO 27001 BUREAU VERITAS Certification

■認証範囲：情報システムに関するハードウェア製品、及びソフトウェア製品の提供
情報システムに関するビジネスコンサルティング、構築、運用、保守及びその他サービスの提供
上記事業に関連する管理業務
■規格：ISO/IEC27001:2013, JIS Q 27001:2014
■認証書番号：4730906-5C
（この認証書は4730906の一部を構成するものです）
■有効期限：2025年11月15日
■登録認証機関：ビューローベリタスジャパン株式会社

兵庫県知事許可一般建設業（電気通信工事業）
［許可番号/（般ー28）第114641号］

ガバナンス推進体制

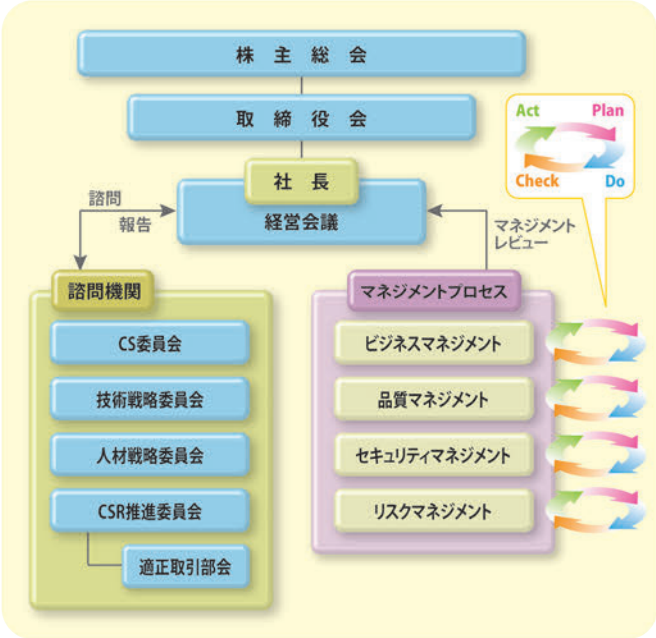
株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営しています。取締役および執行役員の任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制としています。

取締役会は、3ヶ月に1回の定期開催、および必要に応じて随時開催し、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要事項を審議・決定します。

コベルコシステムは、米国に本社を置くIBMグループの一員であり、SEC（米国証券取引委員会）の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。

最高経営責任者（社長）および最高財務責任者（管理部長）は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。

業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵守などコベルコシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。



コンプライアンス推進体制

お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。コベルコシステムでは、「IBMビジネス・コンダクト・ガイドライン」(BCG)を適用した「コベルコシステム企業倫理規程」を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して適切に対応することも求められるため、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。これは、リスク管理チェックリストを使用した自主点検を中心とする取り組みで、その結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し実施するPDCAサイクルを回しています。

当社は、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行するため、ビジネスパートナー様との取引が適正に行われているかどうかの確認も重要です。このため、「発注者の請負の適正化のための自主点検」チェックリストを使用した自主点検を実施し、その結果に基づき、懸念のある項目に対しては適正取引部会が責任者へのヒアリングを実施して具体的な懸念の内容を確認し、改善に向けたアドバイスや対応策の指示などを行っています。

■ 2022年度 リスクマネジメント推進活動

2022年4月～2023年3月

Plan 2022年4月～6月
リスクマネジメント整備・浸透
- 前年の自主点検結果を反映したリスク管理チェックリストの改訂
  - 本社部門用（規程・ガイド制定側）
  - 現業部門用（規程・ガイド遵守側）
- 新リスク管理チェックリストのための自主点検実施ガイド

Do 2022年7月
- 新リスク管理チェックリストによる自主点検の実施

Check 2022年10月
- 自主点検結果の評価

Act 2022年10月～
- 幹部・ビジネスの責任者へのフィードバック
- 是正・改善の実施

お客様から信頼されるパートナーになるために

コベルコシステムでは、「お客様満足度向上活動」を経営を支える大切な取り組みと位置づけ、
お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超え、お客様に感動していただける会社作りに取り組んでいます。
お客様に必要とされ、お客様から信頼される真のパートナーとなることをコベルコシステムは目指しています。

CS(Customer Satisfaction)調査

お客様がコベルコシステムに求めていることを知り、その思いに真摯に応えることで、お客様の真のパートナーであり続けたいと考えています。そのための方法としてお客様からのご意見やご評価をいただく「CS調査」を行っています。CS調査は、コベルコシステムの活動全般に関する「お客様満足度調査」、構築・開発プロジェクトに関する「プロジェクト満足度調査」、運用保守サービスに関する「サービス満足度調査」の3種類を適時に行っています。

改善内容のお約束

CS調査でお客様からいただいたご意見をもとにお客様の課題とコベルコシステムへの期待を確認し、今後の改善内容についてお約束しています。コベルコシステムでは、お約束した内容に基づき改善活動を行っています。

活動結果のご報告

お客様とお約束した改善の進捗状況や達成状況をお客様に報告し、お客様の期待に応えることができたかを評価していただいています。

活動が不十分であった場合には、さらなる課題についても確認し、継続して活動していきます。

業務改善活動

以前はCS改善活動という名称で実施していましたが、すべての改善はCS向上につながるという考えのもと、名称を業務改善活動に変更して全社的に実施しています。

2022年は、過去最高の134チームが結成され、627人の社員が改善に取り組みました。

改善の成果は、業務改善活動発表会にて共有されます。発表会では、役員による審査のほか、社員による投票結果も加味して最優秀賞を選定しています。

また、内容については、発表時の動画を社内イントラネットで公開することにより、発表会に参加できなかった社員も閲覧できるようにして、成果や知見の共有を図っています。

CS委員会

会社がCSについて検討する場としてCS委員会を設置しています。メンバーはCS担当の役員であるCS委員長と、各部門の代表であるCS委員で構成され、CS向上につなげるために社内プロセスや施策の変革に取り組んでいます。社員のCS意識の向上につなげ、ひいてはお客様から選ばれ続ける会社となるべく、満足度の向上をリードしています。

CS研修

社員のCS意識のレベルアップを目指して、CSに関するeラーニングを実施しています。2022年版の内容は、お客様視点経営から始まり、CSの観点から見たDXの取り組みについてや、業務改善活動を行う意義のほか、上記のCSのサイクルについてのリマインドなどの内容で、全社員、全役員が受講しています。

また、社員のCSマインドを高める場として、選抜したメンバーによるCSについての集中討議会を実施しています。CSに関するテーマに沿って意見を交わし、新たな考えに気づくことにより、CSマインドの向上を図っています。

CSスローガン

社員からの公募によるCSスローガンを選定しています。スローガンは毎年100件前後が社員からエントリーされ、これらを社員投票により、年ごとのCSスローガンとして選定しています。また、選ばれたスローガンはポスター化して、社内各所や会議室などに掲示し、スローガンを絶えず意識できるようにしています。

2023年 CSスローガン

CS通信

社員のCSマインドをリマインドする機会として、毎月１回、全社員向けにCSに関するメールニュース(CS通信)を発行しています。

内容はCS委員が持ち回りで体験やエピソードを記したCSコラムがメインとなっています。全社員が毎月リアルな体験をベースとしたコラムを読むことにより、CSについて考え、振り返るきっかけとしています。

品質向上活動に終わりはない

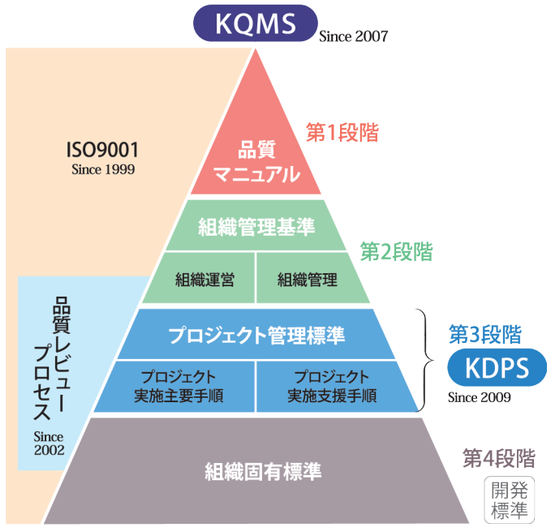
2023年 全社品質方針

**お客様事業の活性化(Vitalization)に貢献するために、
品質マネジメントシステムを継続的に改善し、
高品質なサービスを提供する**

品質マネジメントシステム「KQMS」

「KQMS」とは、2007年に制定した当社独自の品質マネジメントシステムで、「KOBELCO SYSTEMS Quality Management System」の略称です。KQMSの目的は、全社品質方針のもとに、品質目標管理とプロジェクト品質管理によって顧客要求事項を満たし、顧客満足度の向上を促進することと品質保証です。

ISO9001:2015に準拠した「品質マニュアル」を整備し、「組織管理標準」「プロジェクト管理標準」「組織固有開発標準」に基づいてシステム開発を行い、サービス品質を確保しています。



品質マネジメント体系図

ISO9001:2015 認証

当社は、1999年にISO9001:1994の認証を取得後、適用範囲を拡大し、現在は次の組織がISO9001:2015の認証範囲です。

＜ISO9001:2015の認証取得組織＞

- ソリューション事業部
- クライアント事業部エンタープライズ本部
- クライアント事業部アウトソーシング本部第４サービス部
- ICT本部
- 営業本部

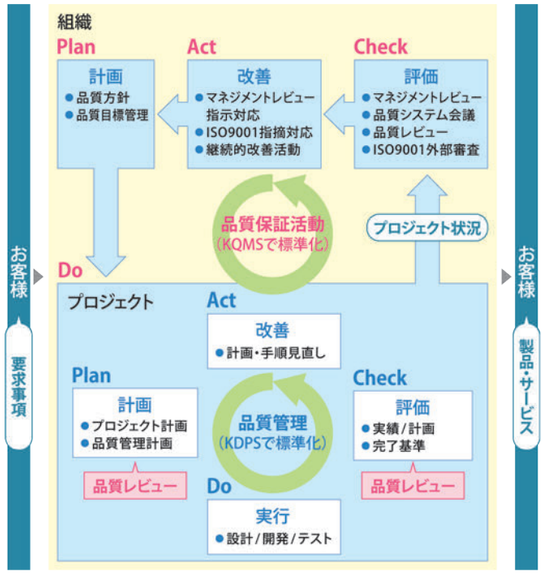
品質マネジメント体制

当社は、CDO(Chief Delivery Officer)をKQMSの最高責任者に位置づけ、品質保証活動を推進しています。品質保証全般については、経営者参加のもと月次マネジメントレビューにおいてプロジェクトの品質状況をフォローし、年２回のマネジメントレビューでは組織的な継続的改善活動のフォローとKQMSの有効性の検証を行っています。

品質レビュープロセス

個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするため、当社独自の品質レビュープロセスを実施しています。

このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策の策定を行うため、訓練されたレビューアにより実施されています。



品質マネジメント体制図

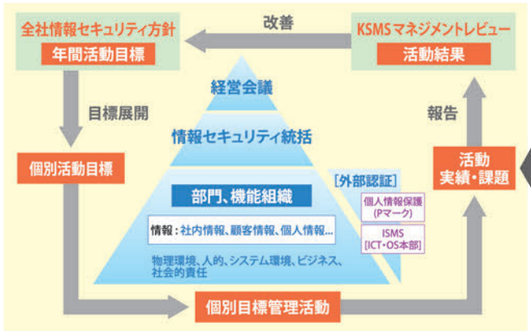
セキュリティなくしてビジネスなし

コベルコシステム情報セキュリティマネジメントシステム

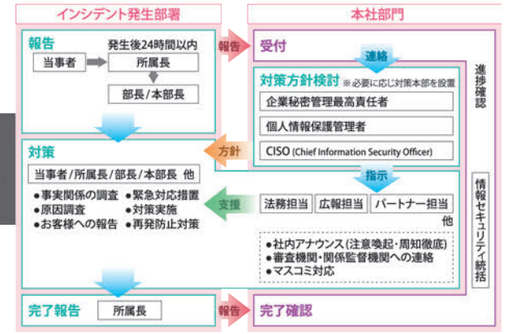
KSMS : KOBELCO SYSTEMS information Security Management System

インターネットは、社会の経済活動に欠かせないインフラへ成長するとともに、個人情報の漏えい、詐欺、窃盗やテロなどが大きな社会問題となっています。

情報システムを本業とする当社は、関連会社も含め、KSMSというセキュリティマネジメント体系を定めてセキュリティ活動を行っています。KSMSでは、経営幹部によるマネジメントレビューのもと、情報セキュリティポリシーの設定・見直し、および「物理環境」「システム環境」「人的」「ビジネス」「社会的責任」の各視点でセキュリティ活動のPDCAを回し、リスクの変化に適応したセキュリティ水準を維持しています。また、セキュリティ・インシデントへの対応は、全社で体制を整備・運用し、全社のセキュリティ活動にフィードバックしています。



KSMS



セキュリティ・インシデント対応体制

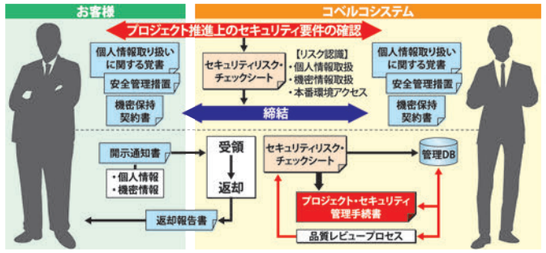
プロジェクトセキュリティプロセス

PSP : Project Security Process

コベルコシステムでは、プロジェクトのQCD管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。

PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク(個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス)を把握したうえで、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理手法です。

お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその情報資産へのアクセスを管理することがコベルコシステムの使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。



プロジェクトセキュリティ対策概念図

情報セキュリティマネジメントシステム

ISMS : Information Security Management System

コベルコシステムのISMS認証は、2003年のハウジングサービス事業から始まり、適用範囲を徐々に拡大して、現在ではICT本部全体で認証を取得しています。

また、クライアント事業部アウトソーシング本部(一部除く)でも日本IBMグループの統一認証を取得しています。

お客様からお預かりする大切な情報資産を守るため、技術的なセキュリティ対策と組織全体のマネジメントの両面から、高度なセキュリティ管理のもとでサービスを提供します。

個人情報保護の推進

お客様、社員の個人情報を適切に保護することは、コベルコシステムの重要な責務です。

コベルコシステムは、プライバシーマーク制度の付与事業者となった2000年以降更新を重ね、個人情報を適切に保護する措置を構築しています。

また、毎年、全社員を対象に情報セキュリティ研修を実施し、個人情報保護の理解を深めるとともに意識の向上に努めています。

先進技術への取り組み強化

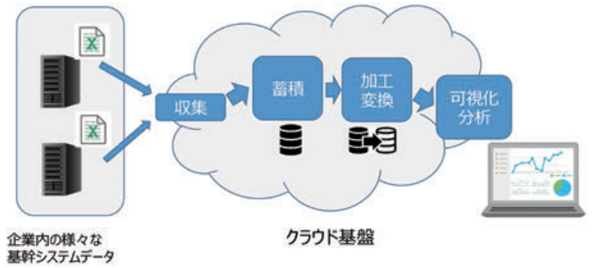
コベルコシステムの先進技術への取り組み

コベルコシステムでは、AI、IoT、クラウドなどの先進技術に継続的に取り組んでいます。これらの技術を活用して、デジタル変革(DX)を推進するお客様の要望にお応えできるようにソリューションの品揃えやメニューを拡充しています。今後注力していく領域について以下にご紹介します。

■クラウドネイティブなシステム構築とデータ活用

企業内のさまざまなデータを分析し、分析結果を経営の戦略や方針策定に活かしていくデータドリブン経営が注目されています。データドリブン経営を実現するためにシステム基盤の整備とデータ分析のニーズが高まっています。また、昨今のDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進においては、自社で設備を保有するよりも、多様なサービスを必要な時に必要なだけ利用できるクラウド上で構築することの方がメリットが大きくなります。このような背景から、クラウドの特性や利点を最大限に活かせる「クラウドネイティブ」なシステム構築を行い、経営に役立つデータの活用が実現できるよう、幅広いクラウド技術を活用してお客様のニーズを実現します。

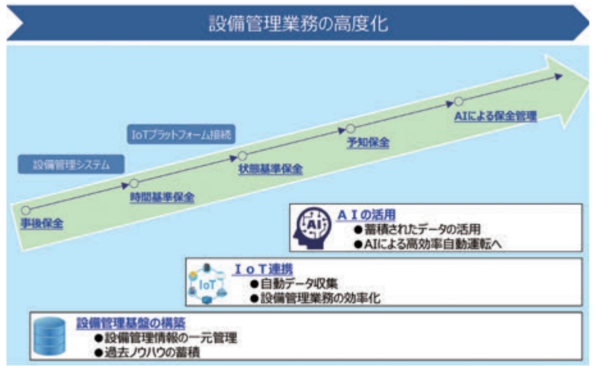
特に企業内のデータを活用する場合、基幹系システムに蓄積されているさまざまなデータをクラウド基盤に収集・蓄積し、可視化や分析を行うケースが増えてきています。当社でこれまで数多くのお客様の基幹系システムの開発や保守運用を手掛けてきた経験を活かし、多様なデータを有効活用して戦略に活かしていくことをお手伝いいたします。



■IoT、AIを活用した設備保全業務の高度化

多くの製造業では、人手不足、グローバル化、設備の高度化、生産リードタイムの短縮などの対応すべき課題を抱えています。そのため、設備保全については、効率良く行い、設備を安定して稼働させる重要性が以前よりも高まっています。

IoT、AI、ビッグデータなどのデジタル技術を活用して、保全業務の効率化、事後/時間・状態基準保全から予知保全への進化、自動運転等、設備保全の高度化を図ることで、DXを推進させ、設備の安定稼働、品質向上、保全費用の低減を目指します。



社内技術カンファレンスの開催

「卓越した技術のコベルコシステム」を目指し、社員の技術力向上とノウハウ共有を目的とする社内技術カンファレンスを年1回開催しています。本カンファレンスは、社外からの招待講師による基調講演と注目される技術に取り組んでいる社員による成果発表や事例紹介を中心としたセッションで構成しています。毎年、システムエンジニアを中心に多数の社員が出席し、日頃の業務とは異なる分野での先進技術や適用事例に触れ、刺激を得る機会にもなっています。

本年は社員が蓄積した技術やノウハウをお客様にも共有したいという思いを込めて、各本部のDXソリューションや先進技術の取り組み、また、技術コミュニティの活動成果についてセッションとして公開しました。開催形式は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、リアルタイム配信と事前に撮影した録画配信のハイブリッド構成で開催しました。また、アジャイル開発に特化したセッションをリアルタイム配信で開催する「アジャイルDay」を開催しました。

ここでは、お客様と共創するためのIBM Garageモデルやスキル変革のためのプログラムを紹介する基調講演のほか、社内展開予定であるアジャイル実践研修の紹介、アジャイル案件の事例紹介を実施しました。

録画配信によるセッション

社長挨拶

＜2022年のプログラム＞

カンファレンス基調講演：デジタルトランスフォーメーションを支えるAWSのデータ分析サービスとカルチャー
アジャイルDay基調講演：共創に向けたスキル変革のススメ〜IBM Garageによる現場から進める共創の事例
録画配信：社内DX事例・テクニカル・技術コミュニティの3テーマに関するセッション(下記表参照)

セッション分類	概要	
社内DX事例	各本部で取り組んでいるDXソリューションと適用事例の紹介	4件
テクニカル	先進技術への取り組み状況や社内アセットの紹介	12件
技術コミュニティ	技術・スキル強化に向けた研鑽活動を行っているコミュニティ活動報告の紹介	7件

リモート開催による司会進行

外部からの評価

感謝状・アワード

コベルコシステムにとって一番の喜びは、お客様からの「ありがとう」です。コベルコシステムが実施した先進的なプロジェクトやアセットビジネスの取り組みなどを評価いただき、2022年もお客様やビジネスパートナー様から感謝の声をいただきました。

これからも、お客様やビジネスパートナー様から笑顔で感謝のお言葉をいただけるよう、また、お客様にとって一番のTrusted Partnerとなれるよう、尽力していきます。

大阪ガス様

大阪ガス様では、エネルギーシステムの一体改革の一環として平成29年度からガス小売事業が全面自由化され、令和4年度からは大手ガス導管事業者3社(東京ガス、東邦ガス、大阪ガス)の導管事業部門について法的分離が義務化されたことに伴い、この法令に基づく持株会社および導管会社の新規設立をマルチベンダーにて対応した大型プロジェクトを実施されました。

コベルコシステムは、持株会社へのSAP導入では単体決算チーム、アドオンチーム、IFチームなど多岐に渡り参画、また、導管会社導入ではIF領域中心に支援しました。

市場的にSAP要員が不足している中、お客様のニーズにお応えし動員力を発揮したことや、特にアドオン領域とIFチームには多くの要員を参画させていただいたことで、SAP-ETL部分でのありがちなポテンヒットを防いだこと、コロナ禍におけるリモート/現地作業を柔軟に対応、計画通りの本番稼働に貢献したことが評価され、感謝状をいただきました。

SAP AWARD OF EXCELLENCE 2022 SAP Services Collaboration アワード

SAPパートナー向けのコンベンション「SAP Japan Partner Summit 2022 online」における、SAP AWARD OF EXCELLENCE 2022にて「SAP Services Collaborationアワード」を受賞しました。

お客様プロジェクトにおけるSAPサービス部門との協業を通じて、SAPが提供する各種サービスへの理解を深め、自社サービスと組み合わせることで顧客への提供価値を最大化。そして最新技術を適用するプロジェクト支援体制を強化されたことが高く評価されました。

SAP AWARD OF EXCELLENCEは、1998年に創設された顧客満足度およびSAPビジネスへの貢献度が極めて高く評価されたパートナー企業および個人に授与されるSAP AWARDの中でも最も価値があるとされる賞です。

これまでコベルコシステムは、2003年の「サービスパートナー部門」賞をはじめ、プロジェクトのインパクト、お客様の評価、プロジェクトのクオリティーなどが総合評価される「プロジェクト・アワード」優秀賞(2006年、2007年、2010年、2011年、2012年、2013年、2014年、2019年、2020年受賞)、特別賞(2018年受賞)、などの受賞実績があります。

2022年度IBMナレッジモール研究 最優秀賞・優秀賞 受賞

メタバース空間を利用した2022年度IBMナレッジモール研究に、コベルコシステムグループから17人(コベルコシステム 6人、コベルコソフトサービス 11人)が参加、うち3件が最優秀賞、優秀賞を受賞し、表彰されました。

IBMナレッジモール研究は、企業・業界・世代の枠を超えたワーキンググループの仲間と自主的に共創研究活動をするプログラムで、テーマに則した最新の情報を習得、スキルの向上を図るとともにメンバー相互の交流を深めること、研究成果は広く公開し「未来を創るテクノロジーで豊かな社会を実現する」ことへ貢献することを目的としています。

IBMの研究活動 JGSが一昨年からナレッジモール研究という形に変わって実施されています。

最優秀賞	[情報システムテーマ]	メインフレーム若手技術者の広場
優秀賞	[社会課題テーマ]	食品ロス・食料廃棄の削減に向けて
優秀賞	[技術探求テーマ]	アプリケーション開発におけるクラウドAIの有用性と課題

お客様事例紹介

タビオ株式会社 様

タビオ株式会社様(代表取締役社長 越智 勝寛 様)は日本を代表する靴下メーカーです。日本最高品質を目指したモノづくりへのこだわりのもと、靴下の企画・製造・卸・小売に加え、「靴下屋」「Tabio」などさまざまな靴下専門店ブランドを展開されています。現在では国内に248の店舗を擁し(2022年12月末時点)、英国、フランス、中国へも展開されています。履き心地にこだわり抜き、丁寧に作り上げられた製品は、まるで「第2の皮膚」のように、靴下を履いていることを忘れてしまうと好評です。

タビオ様の代表製品 靴下

タビオ様では、基幹業務システムのSAP ERPとそのオンプレミスサーバーが保守切れを迎えるのを機に、システム運用コストの最適化とシステム担当者の運用負荷の軽減を目指し、周辺を含む6つのシステムをクラウド環境へと移行するプロジェクトに着手されました。この移行プロジェクトのパートナーには、SAP ERPアプリケーション運用・保守サービスを通じて、長年タビオ様の基幹業務を熟知し、システムの運用・保守をサポートしてきた実績を評価いただき、コベルコシステムが選ばれました。

靴下屋 なんばパークス店

コベルコシステムは、移行先のクラウドサービスとして、現行の稼働環境を維持できるMicrosoft Azureが適していると判断しました。そして、2025年に保守切れが迫るSAP ECC6.0にEhP(Enhancement Package)を適用し、システムのサポート期間を延ばすことを提案しました。プロジェクトはコロナ禍の影響で開始時期が延期されましたが、2022年8月に予定通り完了し、大きなトラブルもなく移行を果たし安定稼働を実現しています。

タビオ様では、クラウド移行により運用・保守コストの最適化が進み、システム担当者の運用負荷軽減を実現されたそうです。また、使い慣れたSAP ERPをより長く使い続けることが可能となり、次期基幹システムを検討するための時間も確保できました。

「クラウドへ移行したことにより、必要なときに必要なシステム環境が構築でき、ビジネス環境への変化やユーザーからのリクエストなどに対応しやすくなりました。今後は最適なIT投資が行いやすくなります。」(システムソリューション部 係長 山根 史太郎 様)

コベルコシステムは、これからもタビオ様のパートナーとして、中長期的視点から基幹系システムの運用改善の提案を行い、ビジネスの発展に貢献していきます。

当社社員と一緒に
(左から二人目 システムソリューション部 係長 山根 史太郎 様、
左から三人目 システムソリューション部 山田 彗斗 様)

白鶴酒造株式会社 様

白鶴酒造株式会社様(代表取締役社長 嘉納 健二 様)は、清酒をはじめ、焼酎・リキュール・みりん・その他酒類の製造・販売などを手がける大手酒造メーカーです。創業以来、品質と安全性を重視したものづくりで食文化・生活文化の向上に貢献し、日々進歩する醸造技術を積極的に取り入れ、品質のさらなる向上を目指しています。

白鶴酒造様は、酒づくりの伝統的な製法を継承しながら、醸造技術を科学的に分析することで、早くから量産化を実現し、高品質で安全・安心な商品を求めやすい価格で提供できる体制を築いてきました。日本酒メーカーにおいて有数の売上を誇る同社は、これまで「利益を上げるために量(石数)を売る」ことを重視した生産・販売活動を続けてきましたが、国内市場が縮小傾向にある中、このままでは継続的な発展は見込めないという危機感を抱いていました。さらに、酒税法上、商品アイテムごとの原価を明らかにする必要がありますが、手計算に多大な労力がかかり、原価管理の高度化が求められていました。

こうして白鶴酒造様は、手動で行っていた原価計算のシステム化を目指すことを決断されました。新たなシステムには、「製品別の原価を生産から販売まで一気通貫で管理し、工程別や部門別、顧客別の切り口で分析可能であること、自社の課題に合う機能面と柔軟な既存システムとの連携、保守・サポートの充実性」を重視して検討が行われました。そこで、原価管理に精通した高いコンサルティング能力と豊富な導入実績を評価いただき、コベルコシステムの提案ソリューションを選定いただきました。

当社社員と一緒に
(左から二人目 執行役員 マーケティング本部長 森 伸夫 様、
左から三人目 経営企画室 課長 山内 隆寛 様、
右から三人目 取締役 常務執行役員 経営企画室長 西村 顕 様)

白鶴酒造様の代表製品「天空」

2019年7月に導入を決定後、すぐに実際原価を把握するシステム構築プロジェクトを開始しました。しかし、スクラッチで開発された複数の生産管理システムと連携するインターフェースを開発するうえで、プログラム解析に苦労しました。コベルコシステムは既存のシステムと業務について素早く把握し、インターフェース開発を的確にサポートしました。

プロジェクトが完了したのは2022年3月ですが、段階的に2020年頃から新システムを稼働し、原価計算精度の向上に取り組んできたため、導入効果は早く現れました。商品アイテムごとの利益管理ができるようになり、それに基づいた販売戦略を進めることで2021年度には減収減益傾向から増収増益に転じたといいます。

「当社の業務は特殊で、原価管理のシステム化は困難と思っていました。そのシステム化を成し遂げることができたのは大きな成果だと思います。コベルコシステムのソリューションによって、業務の見直しも行うことができました。」(取締役 常務執行役員 経営企画室長 西村 顕 様)

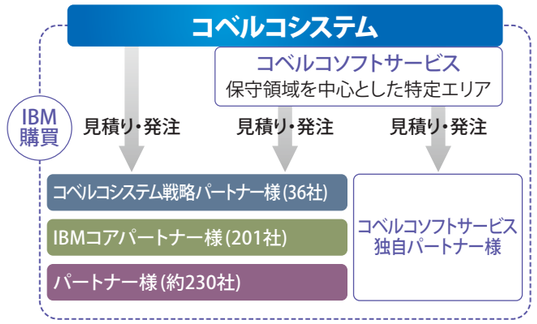
白鶴酒造様は、より精緻かつ迅速な原価管理、利益管理によるデータドリブン経営の実現を今後の目標に、標準原価のプロジェクトやBIツールの活用を見据えています。コベルコシステムでは、これからも白鶴酒造様の経営課題の解決に向けた提案・支援をしていきます。

公正なパートナーシップの維持

より強固なパートナーシップの構築

2016年1月から、コベルコシステムでは、「コベルコシステム戦略パートナープログラム」を導入しています。このプログラムは、価格競争力を保ちつつ、品質の高いサービスをご提供いただけるパートナー様と戦略的パートナーシップを結ぶことで、お客様へさらに価値あるサービスを提供することが目的です。

戦略パートナー様には各社の強みや技術者情報などをご提供いただき、当社からは今後のビジネスを優先的にご紹介するなど情報連携を強化しています。それによって、より高いセキュリティ遵守、適正取引などの法令遵守の相互協力、また、見積りプロセスの簡素化や品質評価のフィードバックの実施など、相互にメリットをもたらす、より強固なパートナーシップを構築しています。



当プログラム対象パートナー様のメリット

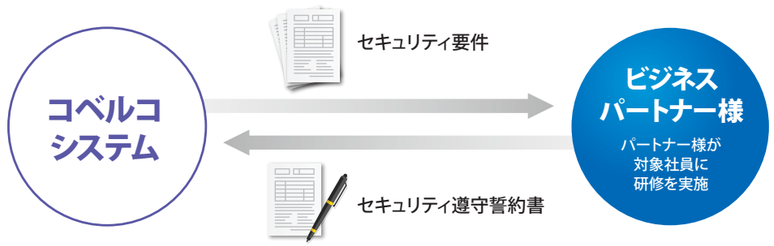
- ビジネスを優先的にご紹介
- コベルコシステムとのリレーション強化の場の提供(パートナー会 など)
- CSA(新見積りシステム)でのバイヤレス(IBM購買バイヤーを介さない)プロセスの実現による見積りプロセスの簡素化と発注までのリードタイム短縮
- パートナー推進グループとの定期的な意見交換および双方のビジネス拡大に向けた取り組みを協業して実施
- IBM主催の研修の割引価格での受講
- セミナー/研修への参画
- 品質評価フィードバックの実施

一体となってセキュリティを確保

当社は、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、当社の社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

当社は、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直して研修を実施しています。また、ビジネスパートナー様に対しては、各社の責任者に依頼し、対象社員に向けて研修を実施していただいています。2022年度のセキュリティ研修においても、対象者全員が十分な理解状況にあることを各社からの履修理解度報告で確認しています。

これにより、当社とビジネスパートナー様が一体となって、お客様のセキュリティ確保につなげています。



適正取引の推進

当社は、ビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式にあわせた発注・進行管理を行っています。それらを適正に行うために、CSR推進委員会内に「適正取引部会」を設け、適正取引ガイド、eラーニングなどにより、具体的なガイドを社内に徹底する一方で、ビジネスパートナー様に対しても、必要に応じて情報発信やアンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。

主な取り組みは、以下の3点です。

① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

ビジネスパートナー様の声

株式会社サイプレス・ソリューションズ 代表取締役 中村 正美 様

株式会社サイプレス・ソリューションズは、コベルコシステム様のご指導ご支援のもと、神戸製鋼所様をはじめ製造業中心にシステムの導入支援、システム開発・運用・保守を半世紀にわたりパートナーを務めさせていただいております。お陰様で私たちも持続的に発展・成長し今日に至っております。ここに深く感謝申し上げます。

これからは、さらに加速化する時代の変化に適応し進化する力が必要不可欠と考えております。コベルコシステム様のベストパートナーを目指し、先進技術の習得、創造力豊かな会社創りを進めて参ります。

「Kobelco Systems Letter」(2022.11.1)にもありました市民開発の発展と課題を拝見し、まさに今、エンドユーザ様におかれましてはIT部門だけに依存することなく、ローコード・ノーコードツールの活用により業務部門が自らデジタル化を実現する市民開発の取り組みが活発化していると捉えております。インフラ整備、システム統制、品質、ガバナンスなど課題はあるものの、IT人材不足の中、DXを推進する流れの一つと感じております。このような流れの中でIT企業として必要なものは何か？ それは、エンドユーザ様に勝る先進技術と創造力のある人財確保と育成ではないかと思っております。

弊社はTCSグループ(IT企業15社1万人)の一員であり、グループ会社においても外販案件を含めコベルコシステム様と長いお付き合いをさせていただいております。

これからも、TCSグループとして幅広い分野で技術を磨き、ベストパートナーとして指名される存在になれるよう努めて参ります。引き続き、ご指導ご支援よろしくお願い申し上げます。

営業本部 スチール・インダストリー統括部
統括部長 松村 英明 様

営業本部 スチール・インダストリー統括部
神戸事業所 事業所長 土居 弘武 様

2022年度 当社ERPソリューション本部「BestPartnerAward」受賞時から

ビジネスパートナー様への感謝(ニューノーマルへの取り組み)

新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、ニューノーマルへの取り組みを継続し、社員ならびにビジネスパートナー様とも隔たりなく、コロナ禍を乗り切るため一体感を持ち、以下の取り組みを実施してきました。

① 当社の新型コロナウイルス感染症対応方針をタイムリーに各社へ発信
② お客様とも協議したうえで、積極的な在宅勤務体制への切替推進
③ 各取引先とも在宅勤務の覚書締結と感染予防へのシフト調整
④ 在宅勤務ができない場合にも、マスク、アルコールなどの衛生品の供給およびパーティション設置などで感染予防環境の整備

その結果、ビジネスパートナー様のメンバーを含め、感染者を最小限に抑えて、業務に支障なく現在まで活動を続けています。

人材育成の仕組み

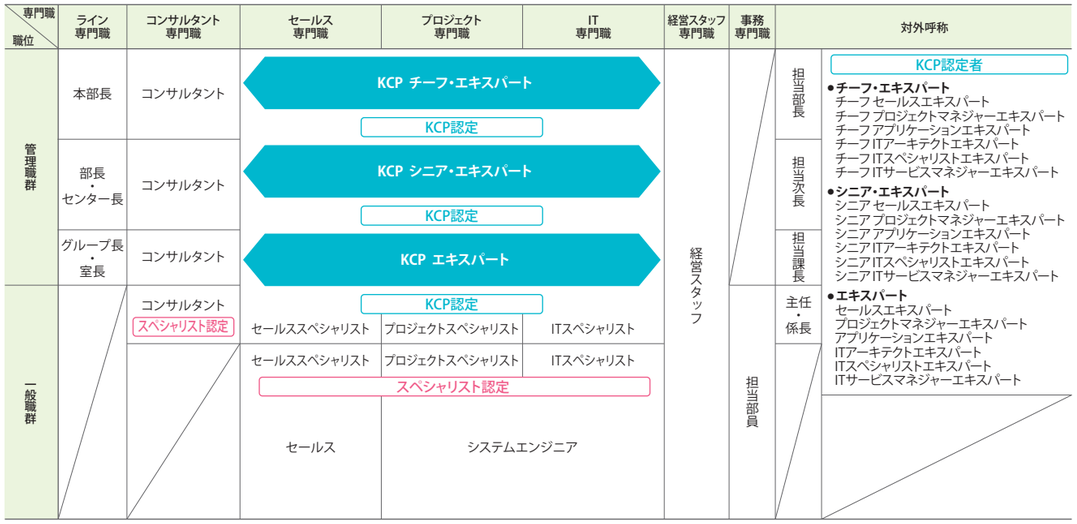
『"コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である"という認識のもと、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキと働き、プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現』を人事基本理念に据え、「期待する人材像、人材要件」を下記の通り定義しています。

① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに、時代や環境の変化に、柔軟に自分で考えて動くことができる人材
② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任を持って誠実に対応できる人材

複線型プロフェッショナル職制度を基軸に ～コベルコシステム認定プロフェッションを目指して～

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮を追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。

そしてハイレベル人材の育成・登用および各職種の目指すべき人材像として、KCP認定制度(KOBELCO SYSTEMS Certified Profession)を設けています。

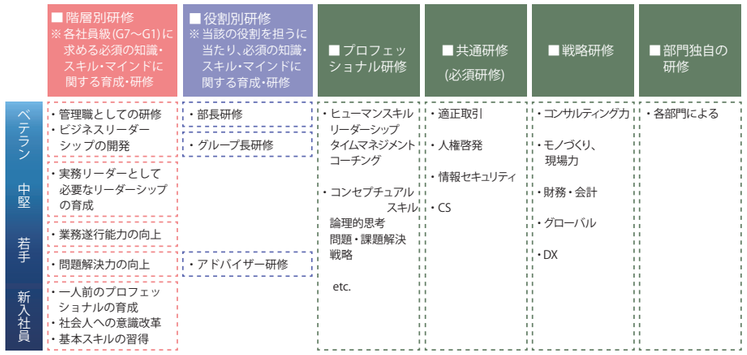


複線型プロフェッショナル職制度 / スペシャリスト試験制度 / KCP認定制度 / アプリケーションマスター制度

教育・研修体系

コベルコシステムでは、「すべての質を高めよう」という狙いのもと、IT研修はもとより、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修や、お客様の経営課題解決に寄与するコンサルティング力、モノづくりや現場力の強化など経営戦略に即応した、さまざまな研修を実施しています。

また、社員全員が知識を習得するための必須研修、各階層や役割別の研修、個人の成長段階にあわせて受講できる研修や、それぞれのキャリアプランに沿って選択・受講することが可能な通信教育、スマートフォンなどでも学習できるeラーニングなど、個人のスケジュールを踏まえて効率よく利用できる環境も提供しています。2023年も、お客様のパートナー(Trusted Partner)となれる人材の育成をさらに強化します。

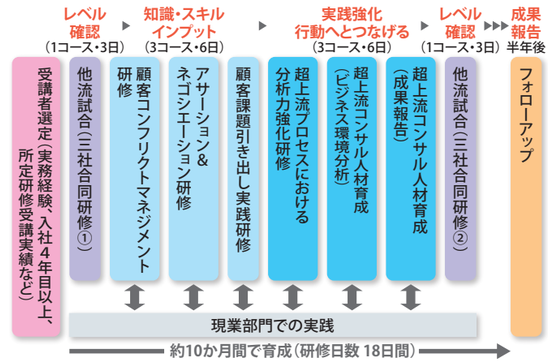


コンサルティング力強化プログラム

ITを取り巻く環境変化に伴い、現在コベルコシステムに求められているのは、お客様のビジネス環境やニーズを理解し、ともに経営課題を解決できる人材です。そのような状況を背景に、「ITベンダーからITパートナーへの変革」を目指し、2016年から開始したのが「コンサルティング力強化プログラム」です。

当プログラムでは、企業分析方法などの知識習得をはじめ、提案書作成、プレゼンテーションなどの講義や実践演習を通じ、さまざまなアプローチでお客様へ提案する際の姿勢やスキルを体得します。

プログラム期間は約1年間で、受講者は各部門から選抜された若手～中堅層メンバーです。今後も継続的に実施し、お客様のパートナーとして活躍できる人材を増やしていきます。



コンサルティング研修 受講者の声　クライアント事業部 営業室　森本 宇未さん

本研修は枕になるほどの高さ(5cm超!)がある経営理論の本が届くところから始まりました。

最先端の経営理論を事前学習したのち、企業分析から提案までのロールプレイといった実践カリキュラムをこなしました。そして、研修の集大成として実在する企業について業界動向や課題、企業戦略を分析し弊社経営陣に提案、レビューを受けるという流れです。

約1年間、毎月の研修を通して、みっちり鍛えていただきました。

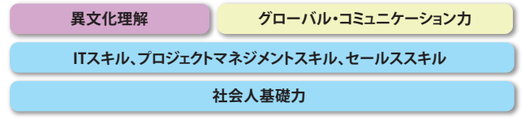
今後は本研修で学んだ知識を活用し、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けられる唯一無二のパートナーとなれるよう、日々励みたいと思います。

グローバル人材育成プログラム

コベルコシステムが求めるグローバル人材とは、「社会人基礎力」や「ITスキル」「プロジェクトマネジメントスキル」「セールススキル」をベースに、「異文化を理解する力」「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」というグローバル特有要件を兼ね備えた人材です。

当プログラムは、英語でのE-Mailライティングスキルや海外でのビジネスミーティングの進め方など、異文化コミュニケーションの要諦を解説と実践演習による経験を通じて理解・習得する内容になっています。

また、研修の成績優秀者には海外で実践するグローバル・リーダー研修を準備しています。語学やスキル習得に加えて、アジア各国の参加者とのコミュニケーションも体感してもらいます。今後もグローバルビジネスで活躍できる人材輩出の環境づくりを積極的に行っていきます。



コベルコシステムが求めるグローバル人材要件

グローバル人材育成プログラム 国内研修参加者の声　技術開発本部 デジタルイノベーションセンター　樫原 篤史さん

研修を受講する前からAI関連の新技術を積極的にキャッチアップするための英語学習に取り組んでいましたが、上司からより効率的に取り組めるよう、この研修を紹介していただいたので張り切って臨みました。研修はすべて英語なので慣れるのに少し時間が必要でしたが、その分英語に対する抵抗感をなくすには最高の時間でした。またビジネスシーンで求められる表現・思想を学習できたことで、個人学習では得られない内容を身に着けることができました。

今後グローバル化が進むにつれて、ますます外国の方とのやり取りが増えてくると思います。その状況を有利に進めるため、今後も継続して学習を行い、業務に役立てていきたいと思います。

グローバル人材育成プログラム 海外研修参加者の声　クライアント事業部 エンタープライズ本部　姚 馨怡さん

このたびはグローバルリーダー研修に参加でき感謝しています。この研修は一般的なものではなく、いかにしてビジネスの俊敏性を実現し、柔軟性を高め、組織の長期的な実行可能性を高めるかを分析するための実用的なアプローチを学ぶというものでした。研修はすべて英語で行われるため、IT分野の情報を共有し、お互いの意見を英語で伝えることは非常に困難でしたが、有意義な時間となりました。

コンセプトだけは知っていたものの業務経験がなかったエンタープライズアーキテクチャの開発方法について、DXの意義を考えつつ学ぶ良い機会となりました。

また、重要なキーワードを、実例を交えて解説していただいたことで、DXの理解をより深め、ワークショップを通じてDXを成功に導く方法について学ぶことができました。

そして、今回の研修で一番印象に残ったのは、インストラクターの言葉です。

それは、「技術的に考え、ビジネスを話し、価値を創造すること」です。

その言葉通り、今後もIT技術を通じてお客様の価値に貢献していきたいと考えています。

人材育成の仕組み

ライン長向け研修

お客様に信頼されるパートナーとしてあり続けるためには、社員一人ひとりがこれまで以上にレベルアップしていかなくてはなりません。そのためには、社員自身の自己研鑽はもちろんのこと、ライン長がリーダーシップを発揮して、部下を適切に育成・サポートしていくことが重要です。

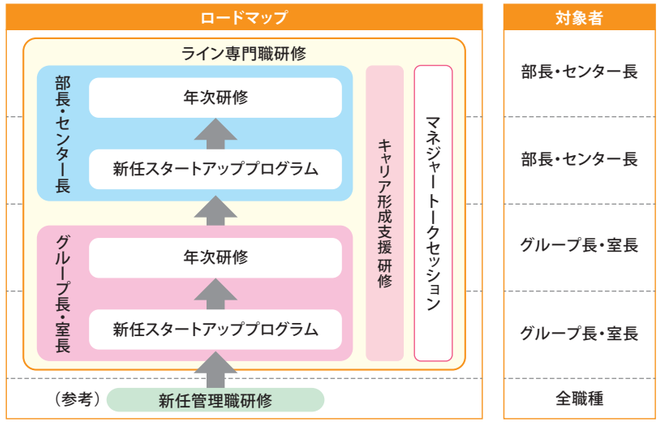
当社ではライン長を対象に「新任ライン長スタートアッププログラム」や「年次ライン長研修」を実施し、ライン長のマネジメント力強化を図っています。

「新任ライン長スタートアッププログラム」は、初めてライン長に任用された社員向けに、ライン専門職の職位と職責の理解や、グループ・室長の業務遂行に必要な知識を付与することを目的に実施しており、「年次ライン長研修」は、全ライン長向けに、社内外コンプライアンス・ルールを再確認し、組織の健全性を保つことを目的に開催しています。

さらに2022年は、社員とのコミュニケーション、エンゲージメントを高める施策として全社員向けにeラーニングで「自律的キャリアデザイン研修」を実施しつつ、あわせてライン長向けに「キャリア形成支援研修」をオンラインで開催しました。

「キャリア形成支援研修」では、メンバーの思いや目指すキャリアについて親身になって話を聞き、メンバーの自律的キャリアデザインをサポートするためには何が必要かなど、理解を深めてもらいました。

ライン長のレベルアップを通じて、社員がより一層、働き甲斐・成長を実感できるように、引き続き人材育成に取り組んでいきます。



DXビジネス推進人材育成プログラム

DXに本腰を入れて取り組む企業が増えている中、当社もお客様から「DXに取り組みたいので手伝ってほしい」というご相談をいただくようになりました。

そうした背景をもとに、お客様の変革を支援できる人材の定義・輩出を目的に、製造業に携わる社内ハイパフォーマーをロールモデルとして、「DXビジネス推進人材育成プログラム」を構築しました。

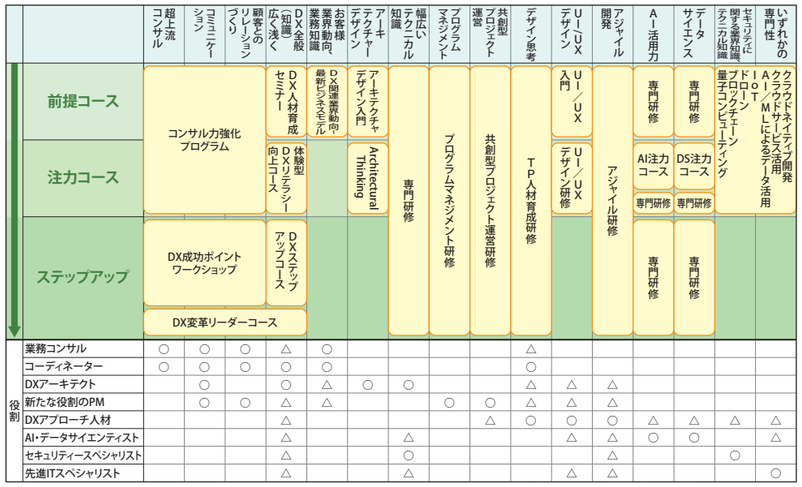
当プログラムでは、当社のDXビジネス推進に必要な役割定義に基づき、役割を果たすために伸長すべきスキルが設定され、それぞれに応じた研修が用意されています。

2022年度はPoC（概念実証）としての位置づけで実施し、20を超える研修にのべ180人を超える社員が受講しました。

DXに欠かせないテクノロジーに加え、お客様の将来を描くための知識や、新しいプロジェクト運営方法なども学んでもらいました。

受講者からは、お客様をご支援するために他にも身に着けたい知識があるという声も聞かれており、次年度開催に向け、プログラムのブラッシュアップを検討しています。

これからもパートナーとしてお客様のビジネス変革を支えられる会社になるべく、人材育成の取り組みを続けていきます。



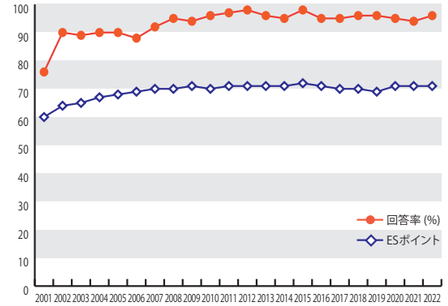
○必須：各ロールで必須受講　△推奨：各ロールで推奨受講

社員と組織の絆を深めるために

社員満足度調査

「社員満足（ES）の向上がお客様満足（CS）の向上につながる」という基本認識のもと、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。全社員を対象に匿名で回答してもらうことで、社員の率直な意見を集め、課題の分析や改善策の立案を行っています。

総合満足度との相関が高くポイントの低い設問への対応に加え、「一律から個別へ」の方針を掲げ、「業務環境の違い」にも着目して対策をとっています。業務環境による社員満足度のバラつき是正など、社員一人ひとりを取り巻く環境を踏まえ、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションをとっています。



KWC活動（KOBELCO SYSTEMS Work-engagement Community）

「KOBELCO SYSTEMS Work-engagement Community（略称：KWC）」は、「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに、全社横断の自主活動を展開しています。

長年、ワークライフバランスをテーマに行ってきた活動でしたが、2022年、在宅勤務が増える中でのコミュニケーション活性化やES向上等を課題に、“ワークエンゲージメント”をテーマに活動をリニューアルしました。

今年の活動としては、「オンライン交流会」という名の座談会で中堅社員約60人の生の声を聴き、それらを基に各部門から集まったKWCメンバーが会社施策を検討・会社への提言を行いました。今後も、KWCを触媒として、社員一人ひとりがイキイキ働くことのできる環境づくり、社内のワークエンゲージメント向上をサポートしていきます。

オンライン交流会からの意見

「今の仕事の満足度は何点？　どうすれば上がるか？」をテーマに意見を募ったところ、「裁量権があることが嬉しい」「自分に合った仕事をしたい」「上下だけでなく横のつながりも大切」などの声が上がりました。これらの意見をもとに“自律的なキャリア形成支援”、“部門横断のコミュニケーション機会創出”について提言を行い、今後の取り組みへとつなげていきます。

全社イベント「コベルコシステムハッピーデー」～家族とともに～

コベルコシステムでは、2008年から「社員同士の一体感の醸成」「社員を支えてくれている家族への感謝」をテーマとして家族参加型の全社イベントを開催しています。2020年はコロナ禍のため開催を見送り、2021年はビデオ会議によるオンラインイベント開催、そして2022年は2年ぶりに屋外でのイベントを開催いたしました。

今回はコロナ禍のもと安全面に配慮して、一堂に会することはなく日程を分散させ、ご家族、仲間同士で自由に楽しめるよう、テーマパークのチケットを各ご家庭に配布する形式にしました。

東京ディズニーリゾート（写真／Shutterstock）

東京地区は東京ディズニーリゾート、神戸地区はユニバーサルスタジオジャパンに、10月から翌2023年1月の間で希望した日程に出かけ1日を満喫しました。

瀬川社長から「当社は順調に成長を続け、昨年は過去最高の業績を残すことができました。社員のみなさまには、大変なご苦労の中ご尽力をいただいていること、そしてそれを支えるご家族のみなさまにあらためて心より感謝を申し上げます。ぜひ、ご家族や仲間たちと楽しいひと時を過ごしていただき、日ごろのコロナ疲れを少しでも癒していただければ幸いです。」とチケットとともにメッセージが贈られました。

社員同士の一体感の醸成を図れる貴重な機会です。久しぶりに羽を伸ばし、満足度の高い有意義なイベントになりました。

ユニバーサルスタジオジャパン（写真／Shutterstock）

環境保護・地域貢献活動

「森の世話人」活動

コベルコシステムが本拠を置く神戸は、シンボルである六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体で六甲山の自然を守り育て、親しみ、そして愉しんでいます。

コベルコシステムでは、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所が推進する防災事業の六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し、六甲山の前山の金鳥山（神戸市東灘区）南側に広がる森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

主な活動は、他の植物の生育を妨げるネザサの刈り取り、腐朽木や外来樹種の伐採、常緑樹の間伐、落葉広葉樹の植樹などです。

第35回「森の世話人」活動（2022年11月3日実施）

毎年、50人規模の全社活動を年2～3回、その合間に10人前後での中間活動を年間十数回程度実施しています。また、活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年3月から活動を開始し、13年目の2022年末までに、全社活動を35回、中間活動を107回実施し、のべ2,600人以上が参加して活動を継続してきました。

2022年は、新型コロナウイルス感染症の影響により全社活動は2回だけでしたが、緑豊かな、秋には紅葉が美しい森林になることを目指し、ウワズミザクラ、カスミザクラ、コバノガマズミの苗木を計10本植樹しました。

また、これまでに「Kocoroちゃんの森」の休憩所にあわせて10脚のベンチを設置・寄贈し、ハイカーや登山客の皆さんにご利用いただいています。

活動開始から14年目となる2023年も、引き続きネザサ刈りや伐採・間伐とともに落葉広葉樹の植樹を行い、土砂災害に強い森づくりを実施していきます。

コベルコシステムの自然保護活動
イメージキャラクター
Kocoroちゃん

林内のネザサ刈り

植樹作業

※コベルコシステムの「森の世話人」活動の活動報告は、国土交通省の以下のページに掲載されています。

https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr_media/plant/group/company/kobelco.php

その他の社会貢献・地域貢献活動

■スポーツ振興・文化芸術への協賛

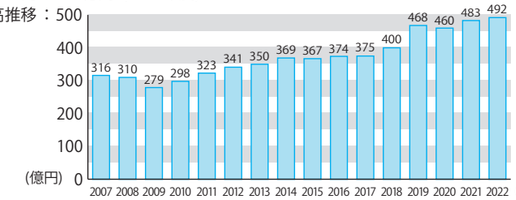
- NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構（SCIX）に協賛しています。
- ジャパンラグビー リーグワンのコベルコ神戸スティーラーズのオフィシャルサポーターです。
- 公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団、公益社団法人アンサンブル神戸に協賛しています。

■サイバー犯罪に対応するための兵庫県警への貢献

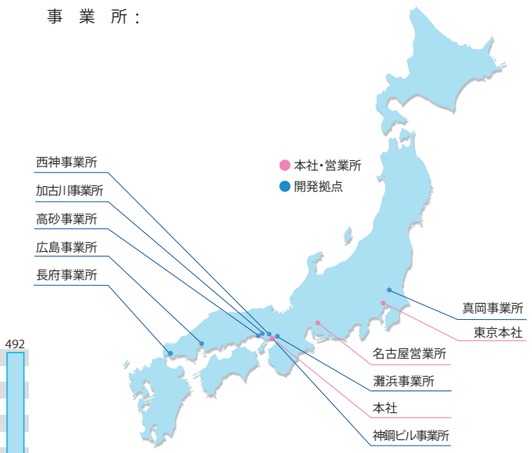
兵庫県警察本部からの委嘱を受けて、サイバーテクニカルサポーターとして社員を派遣し、サイバー犯罪に対応するためのIT捜査知識・技術の向上に貢献しています。

会社プロフィール

会 社 名 称：コベルコシステム株式会社
創　　立：1983年10月1日
　　(神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)
設　　立：1987年7月1日（コベルコシステム株式会社に商号変更)
代 表 者：代表取締役社長　瀬川 文宏
株　　主：日本アイ・ビー・エム株式会社　51%
　　株式会社神戸製鋼所　49%
資 本 金：4億円
社 員 数：1,724人（2023年1月1日現在, 関連会社 513人を含む)
関 連 会 社：コベルコソフトサービス株式会社
本　　社：〒657-0845
　　神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号（シマブンビル)
U R L：https://www.kobelcosys.co.jp/
売 上 高：492億円（2022年度)
売上高推移：



事　業　所：



沿革

2022年：クライアント事業部、ソリューション事業部 開設
　　事業統括本部、キャリア開発センター 開設
　　新たなチーフオフィサー制 導入
2021年：エンタープライズ開発本部をエンタープライズ本部に改組
2020年：エンタープライズ開発本部 開設
　　次世代育成支援対策推進法認定マーク（プラチナくるみん）取得
　　広島事業所 開設
2019年：技術開発本部 開設
　　スマートファクトリーセンター 開設
2018年：デジタルイノベーションセンター 開設
　　クライアントパートナーチーム 設置
2017年：日本IBMグループ統一ISMS認証取得（SO本部)
2016年：東京本社リニューアル
2015年：「コベルコシステム クラウドインテグレーションサービス」開始
　　事業部制導入
2014年：SAP導入テンプレート「HI-KORT」のクラウドサービス開始
　　本社「近畿ニューオフィス コミュニティ賞」受賞
　　ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）永年登録表彰
2013年：「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰
2011年：中国・北京で開催された「SAPPHIRE NOW in Beijing」に出展
2010年：クラウドサービスセンター 開設
2009年：次世代育成支援対策推進法認定マーク（くるみん）取得
　　「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」を商標登録
2007年：全国企業品質賞にて大賞受賞（栃木県経営品質協議会主催)
2006年：東京事業所を東京本社と改称
　　全国企業品質賞にて最優秀賞受賞（栃木県経営品質協議会主催)
2005年：AMS※センター 開設
2004年：IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出
2003年：ISMS認証取得
2002年：アウトソーシング事業を強化
　　日本IBMの資本参加
2000年：プライバシーマーク（個人情報保護）の認定取得
1999年：ASP事業の本格的な展開を開始
　　ISO9001認証取得

※ AMS：Application Management Service
　　SAP社のERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼動後の安定稼動や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、まことにありがとうございました。
本レポートはそれぞれの分野の担当者が、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて執筆いたしました。
また、記載の内容をより理解いただくために図や写真を多用し、かかわった社員の声を数多く掲載いたしました。
コベルコシステムのCSR活動に対する皆様の理解が深まり、親近感を覚えていただけましたら幸いです。
今後もさらにCSR活動を強化し、ステークホルダーの皆様と“ともに”の姿勢で取り組んでいきます。

CSRレポート2023は、以下のURLからWebBook版でもご覧いただくことができます。

https://www.kobelcosys.co.jp/ebook/csr/2023/csr2023/

ご意見・ご感想は、当社ホームページ「その他のお問合わせ」からお願いいたします。

https://www.kobelcosys.co.jp/inquiry/other/

コベルコシステム株式会社 経営企画部 CS・CSR推進グループ
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル10F
TEL: 078-261-6001　FAX: 078-261-7520